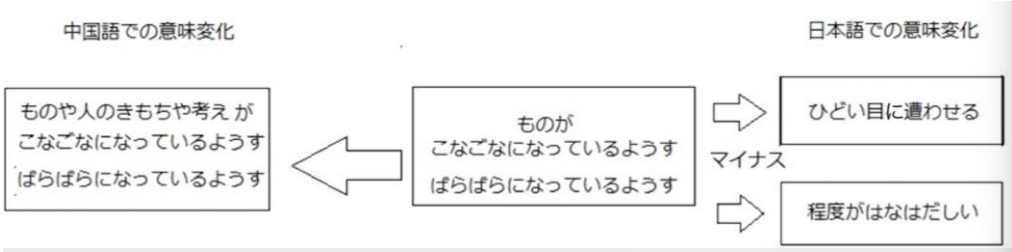
漢語副詞の意味変化と表記　―「散々」を例として―

蔡嘉昱

中国語から輸入した漢語は，意味や用法を変化させながら日本語に定着している。漢語副詞は，サ変動詞や形容動詞と比べて，日本語で独自に変化しており，副詞的用法を獲得する漢語副詞の受容は不規則的な変化であると言える。

本発表は，Ⅰ類の一例である「散々」の意味変化の過程を明らかにすることを目的とする。また，日本語において，「一所・一緒」のような，意味変化が漢語の表記に影響を与える事例が見られる。このため，本発表では，このような表記の変化が「散々」のような漢語副詞に見られるか否かを考察する。

調査の結果，図 1 に示すように，「散々」の中国語での意味変化と日本語での意味変化異なる方向で変化していくことがわかる。「散々」は，日本語において，様子，状態を示す意味から抽象的な程度的意味を獲得したことが分かる。



「散々」の意味変化と使用形式の関係について，抽象的な程度の激しさを表しうるようになった後，「に」を伴わないで副詞として使用される用例が多くなっていると考えられる。意味変化と表記の関係について，仮名で表記される最初例は中国語にある意味で使用される用例であるが，全体的に中国語にある意味が使用される場合より，日本語独自の意味が使用される場合では平仮名表記が多く使用されている。